



特270
55

嶋
六家
教人
別其
外全



始



八丈島渡海の洋中、黒波の中、汐波有、由世間テ
 中山間口島津用形、坑山下、魚十布、并、竹、竹、新、改、元、月
 切者、成、之、の、相、形、の、和、八、丈、島、渡、海、の、洋、中、黒、波、中、
 汐、波、の、美、於、島、方、中、傳、出、大、何、主、一、汐、と、黒、潮、と、中、
 少、亦、無、不、中、方、を、浦、突、大、島、新、海、邊、近、く、汐、波、ハ
 國、地、格、別、形、と、後、ハ、其、山、地、形、新、海、邊、近、く、汐、波、ハ
 汐、波、定、ま、る、時、相、形、の、行、お、流、之、美、島、島、島、
 海、邊、ハ、近、く、汐、波、中、く、荒、汐、由、て、八、丈、島、邊、近、く、
 列、島、海、邊、荒、く、近、風、由、て、十、分、の、帆、と、折、り、下、る

忽向い沙に成りし船を一向にまき不中乃切后
以河沙の事とせしむる昔時、流急おぬ所は、月
着風浪勢、ゆれ又、凡弱、山、一、忽、流、さ、り、ま、流、流
い、あ、り、且、且、は、凡、あ、て、洋、中、程、あ、て、も、家、後、立、た、り、
比、ほ、そ、の、帆、若、者、と、も、お、ぬ、や、り、果、然、中、ハ、不、存
比、ゆ、え、八、丈、島、沖、合、居、の、吳、名、世、は、荒、浪、た、る、返
一、山、沙、一、名、大、登、り
是、ハ、大、島、波、海、洋、中、郊、方、が、固、流、一、水、音
言、く、流、の、と、く、海、の、由、右、沙、集、り、流、を、流、船

杯も出ら奉おぬ不中、おぬを勿論、事、由、り、
一、登、り、サ、ワ、チ、ヨ
是、と、宣、い、方、が、申、い、方、流、一、節、同、以、の、音、
瀧、い、と、く、海、流、流、有、い、由、
一、ヶ、
是、と、流、根、を、固、が、郊、流、一、沖、て、之、郊、が、固、流
一、二、重、沙、あ、て、た、ヶ、後、流、一、中、
正、忠、又、日、世、俗、海、上、怪、沙、等、都、る、語、
愚、ノ、甚、ナ、リ、ト、公、
一、年、前、書、ノ、事、
八、丈、ノ

弘長問フ其船其年ニ宅島ノ沖合ニ及
破弘名先年モ亦此事アリト云不可強ク

一麻門國書ニ日本由海ノ洋中黒潮ト云モノアリ
此汐冬ハ至テ荒ク紀州灘ナトテシテ吹ニ逢タル船
西北^北ノ間ニ此ノ汐ヒカレ破弘スルト云予此事ヲ數
早^チチ云^云問ニ此ノ汐ヒカレ破弘スルト云予此事ヲ數
船首^チ問^チフ何レモ不知ト答ル工工虚該ナラント思シ
或時勢州阿濃津ノ老タル傳助ト云弘葉ニ逢テ
問タルニ始メ不知ト答ヘシ工工益虚説ナルヘシトツク
ヤキケレハ其モノノ云ク黒汐ト云事ハ船葉スル者

甚タ嫌フ莫ニテ他ノ人ハ云ニ不及弘葉同士モ語ル事
甚禁スル也某ハ寂早年老テ船葉スル事ナキ工工
語リ一ヤ也此黒汐ト云ハ誠ニ怪潮ナリ先^チ其疾^ク
矢ノ如ク東ニ行カトスレハ忽ニ變西ニ行其メクル^クヲ鞠^テ
轉スルカ如シ風ニ向テ流レ高キ^ク一山^ノ之如ク忽崩レテ百
丈之谷ノ如潮ニナキリ落^リ瀧ノ如シアマツテ此汐入
タル船二度出ル事ナシ怪補事云計リナシ此汐秋末
ヨリ春之末迄アリ也春彼岸ノ後南方ノ赤汐ト云^フ
アリ西南ヨリ東北ニ流ル^ル一凡其幅五七里赤キ淡ク

リ年依テ汐不同アリ是南海ノ澳士沖澳ノ目
當トスル也此汐来テヨリ激浪漸ク遠サカリテ梅
雨ノ前至向黒汐アル事ナシ惣テ海上ノ妖怪数多シ
船乗他人ノ語ルヲ禁ス語レハ船ヲ破ルト云リ豆州
下田ヨリ八丈島エノ渡海モ此汐瀨アル工冬春冬
渡海ナリカタシト云リ然ルニ唐船長崎江ノ渡海冬
令至後ヲ期トスト云定テ乗方ノ秘事アラニカト通
辞問タルニ唐方ニハ右黒汐ノ沙汰カツテ是ナシト
云リ右左甫ヨリ崎湯ヘノ針路ハ西北ノ風煩ナル故

カト云リ然ルニ蘭人ハ此黒汐ヲ甚チソルトナリ故ニ
凡哇ヨリ日本ヘノ渡海夏至前後ヲ目當ニ帆スル
云リ何故ニ夏ハ黒汐ナキ事ヤト問タルニ其ノハ先年
東都ヨリノ御沙汰ニテ其年在留ノカヒタニ乱シタル
アリ夏モ潮道ハカワル事ナシ冬海ノ如ク暴逆渦清ノ
患ナシ潮ハ元来月離ニ随フ也夏ハ月道遙南ノ頭
夜短ク日長シ故ニ東北ヨリ西南ヘ行汐道ユルヤカニ
ヤシハシエノ渡海患スクナシ秋ヨリ春至夜漸ク長ク
月道黄道ノ北六度ニイタル故ニ日本南海潮道

月道ト相近シ相近キトキハ潮汐月行ノ夕夕ニ逼リ
搏旋逆浪其御音雷ノ如シ然モ月遊輪ノ最卑ニ有
レハ暴逆譬言ルニ物ナシト云リ此事如何ナル故ト不審
シタルニ皆月道ノ遠近ニヨル誠ニ見ヘシ北海ハ四時物物テ
汎ノ満トテスクナシ夏ハワケテスクナキニテ知ルヘシト云リ
後司天監洪川子公儀天文方
洪川圖書問タルニ月行遊輪ヲ
搏旋ヲ物テ九道アリ皆黃道ノ公運ニ隨フ最高ヲ
白道ト云最卑ヲ黒道ト云月遊輪ノ最下ニアルハ海
水青黒潮汐暴逆スル事甚シ是ヲ黒汐ト云ト云リ

天經或問ニ月與水ノ如ニ磁之吸鍼珀之拾芥也又
佛書ニ黒月黒凡有リ豈黒キ月ノ早凡アラシヤ
黒ハ黒闇ノ儀ナリ黒汐亦暴逆冥朦所トノ指シ亦
スヘカラサルヲ云云云云

水酒入仕洗付候事相い

中文何と云は長候より酒丸と云を
程酒入仕洗仕立候事相い

以上

辰十二月

但浦附材、恒指と云小市と看先も中文に
取合申合申且注を仕注丸より御料と
取代及私儀と候事此路迄及及申と中文に
取斗右取御先申上と候事此路迄及及申と
二取申と

此酒入仕洗付候事相い
但浦附材、恒指と云小市と看先も中文に
取合申合申且注を仕注丸より御料と
取代及私儀と候事此路迄及及申と中文に
取斗右取御先申上と候事此路迄及及申と
二取申と

但浦附材、恒指と云小市と看先も中文に
取合申合申且注を仕注丸より御料と
取代及私儀と候事此路迄及及申と中文に
取斗右取御先申上と候事此路迄及及申と
二取申と

但浦附材、恒指と云小市と看先も中文に
取合申合申且注を仕注丸より御料と
取代及私儀と候事此路迄及及申と中文に
取斗右取御先申上と候事此路迄及及申と
二取申と

あつたてのし

己二月十八日

伊兵衛
蔵持庫使

伊兵衛
蔵持

右浦附

与社
氏
氏

文化六己年六月十日

伊兵衛附酒之
濫礼酒方お所出此由書

一 惠酒を濫礼三枚大酒一口斗枚 三宅酒
一 口 之枚 新酒一口斗枚 利酒

上あ

酒房

右浦附

与社
氏
氏

一門之教 津波の一口水救 出船の
一門水救 八丈波

本寺と遠方には後山経國階階の著る矣是れ亦其
階階の如く火と云ふお景波有る之陽有る之介と景天
の亦公金主國化源を以て成る大治新の津波の如く
の波と云ふ合景火と云ふは後と見定ると右と波と云
矣此れは其意を以て波の方より波の方へ経てお波の如く
あり上総右と云ふは又ハ此れ津波の奇事津波の例
波の方所迄も波の如く波の方へ波且利の津波の如く

島へ又波の如く右と云ふは此れお波の如く大と云ふは波の如く
振丸の如く右と云ふは波の如くおの如く右と云ふは波の如く
有る如く右と云ふは波の如く又ハ波の方と云ふは波の如く
右中波の如く右と云ふは波の如くお波の如く右と云ふは波の如く
是又中波の如く右と云ふは波の如くお波の如く右と云ふは波の如く
波の如く右と云ふは波の如くお波の如く右と云ふは波の如く

己亥月

瀧川小右衛門

津波の如く

向後其國に於て其宗廟に若し其功も及ばざらん
 ことありては及ばず其宗廟に於て其功も及ばざらん
 公の功も及ばず其宗廟に於て其功も及ばざらん
 の是れ其宗廟に於て其功も及ばざらん
 方未だ其宗廟に於て其功も及ばざらん
 ありては及ばず其宗廟に於て其功も及ばざらん
 一統の爲に其宗廟に於て其功も及ばざらん
 一は其宗廟に於て其功も及ばざらん
 其宗廟に於て其功も及ばざらん

陣尾に飾り置けり、掃除子入るる所、政公を討つる
 其の稽古亦亦波は其の意を其方大に其意を其方大に
 其意を其方大に其意を其方大に其意を其方大に
 櫻の如き其意を其方大に其意を其方大に其意を其方大に
 仕上るるなり

文化元年四月

皇國新編村田村

前田教馬
 又高平

年号

利江島平

熱江島平

赤江島平

口崎村江島村

年号

赤江島平

年号

赤江島平

是

付度に後、此の地に玉系大縄亦有然る古き神あり
其の方入用と云ふ言、神坐の地、此の地は玉化満り
場あり候、此の地は此の地に玉系大縄亦有然る古き神あり

同大縄を云ふ、非常、且、由と、一、七、急、夜、終、玉、試

打、亦、在、用、中、乃、是、也

右、此、地、又、は、後、承、和、子、最、也、也

文化、文、在、年、一、月

新、地、地、人

赤、田、新、也

是

一、竹、大、縄、古、長、也、也

在、此、地、亦、有、此、地、書、面、之、由、由、故、也、其、地、在、此、地、也
此、地、地、小、乃、是、也、一、同、此、地、也、其、地、在、此、地、也

辰巳月十日

新橋町

地所人
市田教馬下

若江村
勸之橋下

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

大瀧 東西六里
南北三里
周也拾八里

浦戸
浦戸三拾六里
下回九里余

浦方 新橋村 忌田村

右有村合家之百八拾六人
人教子七十七拾六人

男 八百三拾六人
女 九百四拾六人

山方 差束地村 泉津村 地増村
右三村合家之百三拾三人

人殺五六拾七人

男斗百九拾三人

女斗百七拾四人

右邊に及て相州浦賀の南にあり海上に拾里余隔
るる淺瀬の山を裾通致際。民家有く山之中禰
返と本萱木も茂り山の先夫より上を麓石の方草
木等々絶頂に化煙斗百間禰も相見九ヶ売池有く
不絶桐立の池に底見不中右裾通新橋是田
泉津若木此時禰とみヶ村民家相連り右の浦
方山方と相分り人氣茂風俗を余程相遠めて

浦方と持山を畑斗方漁業重仕人氣風俗
國地似あ手跡未仕の者茂有く且弘漢船とも
此村に限り弘漢水をも右二ヶ村より弘漢山方三ヶ村に
深山中の山稼ろ已仕るるに舟舟人人氣茂正並相見
手跡仕の者も多しを若木地材の内及内中との
且弘漢艘所持いし弘漢弘漢水をも新橋又て
浦方あ村より弘漢山方三ヶ村を海上に要内有く
此邊村より若木地村に兼り弘漢三里禰と市三系山
橋に六月廿日登山いし弘漢斗り高ヶ凡お拾町禰
平人登山いし弘漢七日間廿九斗り行

りー其とる登山りーし備

[Faint, illegible handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page.]

利 濱 東西あり 周に 12 里

江戸より 12 里
浦賀より 7 里余

家 5 拾 12 別

人 数 10 拾 7 人

男 10 拾 6 人
女 10 拾 1 人

右利濱の傍に伊豆國ヨリ舟の方あり海上に拾三里に
新濱ありと云ふ方あり海上に五里有新濱あり利濱に
間と瀬戸合ふ唱之り汝松荒り渡海難儀の場洲

舟有之地理之便之海沮方之分通利場
 其介黑赤去方地味惡水不足之活方平日
 吞水之雨天之席捲之荒と出—雨水涌相用
 旱魃之砌と激と汲と方出—或ハ海上靜とハ
 新瀉は波海い—水貫山と漸相凌人家ハ活
 少と方—そと居村下—水急流多所有之石
 陽之舟船揚却之良是艘限、濱持—と夜出船
 若船大と方難候、有と

新

瀉 東西三拾町程
 南由山三二里程

周也七里

江戸より四拾七里
 浦野
 下田より四里余

家三百四拾六軒

人殺子九百七拾三人

内男九百四拾八人
 女子四拾六人
 外寺僧九人

門 若渾

家三拾八軒
 人殺山百五拾七人

男 百廿一人
女 百廿七人
外寺僧 五人

口内村

地内村 東西三町程
南三町程

是ハ利清ヨリ西ニ南リ松町程滿積ノ邑也
有ク岩間ニテ池附ハ陽洲ニシ

式根池 東西五町程
南五町六町程

是ハ新池ヨリ南ニ南リ五里余隔リ之本生庵ヨリ
家地并松打ニ修復ホシ長ク亦亦伐出ク春ニ
内渡業重ニ相稼ハ陽下ガ民家ニシ

新渡根池 東西二三町程
南北五町程

是ハ新池右利池ノ間ニ有ク南邊入舎ガ
致渡沖邊大塚末岩間ニ亦亦之ニシ民家
茂クシ

右新池ノ後ニ坪更厩ヨリ辰巳ニ南リ海上松三里隔リ
海西ノ後ニ荒灘中ニ池ニシ之ハ大國化ノ
灘ヨリテ波立荒ク地理ノ後ニ南水ニ山ニ注ル村
ノ方字前漢ノ唱砂漢ノ支分東ノ方字相伏漢
近凡ニ松町程横松田ノ村茂平比有ク時伏漢也

砂濱の方松島と及て中村前濱の方用私賣私
 大砂濱は川揚ヶ在私國は一軒居る皮細地大
 係砂は陽而方地味、水宜湯方有る
 式根湯白ニテ布湯出有る式根市布千十丈、
 中布式根市ハ以有る長ハ法沙カマリ由千十丈ハ
 在、不有由口布ハ湯之花も金程有る由右湯の花
 元二三日も年毎ハクサリル由亦湯も汲二三日も在
 以ハククナリル由式根湯ニテ忌云系不猫籠子
 能ツ、シホ也
 新湯、イノラトP五地方也リ、仙臺、入取、三井、一尺、等、
 二尺、位、近、花、ハ、也、リ、如、外、濱、也、リ、中、白、花、ハ、三、井、大、也

神津湯

東西を里程
南北を里程

周上五里余

江戸ヨリハ佐田
 浦候ヨリ
 下田ヨリ括斗と余

家小百九拾八軒

日後家三軒

水呑 拾六軒

外 寺 五軒
 會所 五軒

人殺 子七百拾人

日男 七 百拾人
 日女 九 百七拾人
 外 寺 人 五 人
 流 人 五 人

右神津嶋の成を伊豆國より已年。南り海上に八里
 程有く新津より年々方。南り海上六里有く新津村
 三根崎の神津嶋の間瀬戸合ら唱むる汐根流く
 別ら十月ヨリ末々西風逸く渡海不自中。有く
 地理の痕る半山方なる平地空く。諸方なる漁業も色
 有く一稱砂比小砂利更り。方地味薄く。麦化
 蓄穀亦茂出来方不立。諸方。有く。

定大明神

但三嶋化使
 四月 六月 九月
 何レモ中ノ
 酉日祭日

三宅嶋 東西二里程
 南北三里

周上程五里余 八里共

伊ヶ谷村 阿古村
 伊豆村 降田村
 神若村

江戸ヨリ七里
 浦賀ヨリ
 下田ヨリ七里余

家四百七拾六軒
 人数二千四百五拾二人

男千二百三拾中人
 女千二百三拾五人

右三宅嶋の成伊豆國より辰巳。南り凡七拾六七里

隔リ難海ニ舟渡海不容易地理ニ依テ一新
浚渙方平地ヲ中々一向テ百姓居屋交茂山
間ニ住居いッ一畑地ニ依テ中々切者畑方
定化場ヲ中々終有テ中々一弘志場ニ依テ
伊ヶ谷村地内字大弘戸因テ小弘以伊豆村ニ依テ
志陽字赤ルン一与中陽有テ一弘志神志村
地内字大久保演方伊豆神志有村入舎方神志
村ニ依テ弘志場方伊豆神志有村田村ニ依テ
村内一弘志場方伊豆神志有村古三々村ニ依
演方一弘志場方村内一弘志

中陽有テ一阿古村ニ依テ中々一弘志場有テ
一弘志場方伊豆神志有村田村ニ依テ
巖石切岸ニ際ニ少々石比又々砂比ニ依
有テ中々一弘志場方伊豆神志有村田村ニ依
成テ弘志場方伊豆神志有村田村ニ依
出帆ニ依テ弘志場方伊豆神志有村田村ニ依
いッ一弘志場方伊豆神志有村田村ニ依
種迹与唱有テ一出帆ニ依テ弘志場方伊豆神志有
由有テ一弘志場方伊豆神志有村田村ニ依

三嶋大明神

十二月九日 中西日

新嶋_七

三嶋大明神

十二月八日 祭禮

以龍浦

東西各里余
南水各里社

周也各里

四里共

江戸より各里六里
浦賀より
下回より二十里余

家計七形

人殺計百之拾三人

男百八人
女百拾五人

右此龍浦之役也三宅浦より年之方南に渡海七里
有之之龍海方夏秋之内に渡海も如く此頃
冬春之中に容易に渡海不成成也之凡らも

高波立。子成神。私為陽字大根市漢中陽
 所是之石之巖石及私為甚能可方地理之及
 之海潮之東西南小大切岸之漢中一尚之
 村名も之。此流流之唱西小。向ハ住居紅終教
 二括八折有。古代之之完流之枝流之始之完流
 之支配之流也。而室曆十三未年。列候之元斗
 相成由。有。

八丈流 東西二里半 南北四里

周也括四里余

小流 東西三括所注 南小北括所

江戸ヨリ百五十四里 浦賀ヨリ 下田ヨリ四十五里余

大咲々 中ノ村
三ツ根村 榎三村
未吉村

小流 宇津布村 多赤村

家九百括所
人殺六百二十人

男二千八百八十人
女三千七百八十人

小治
家 石松新
人 数 八 百 五 十 人
男 百 七 十 七 人
女 三 百 九 十 四 人

右八丈治之波津豆圃より巳午。南凡海上百里は溝
之る龍海之容易。波海難お成地理。後一祈
山方多平地。と終句。下。大。大。大。三。根。由。村
る。色。少。く。平。地。有。り。大。笑。々。内。字。八。重。根。三。根。村
之。内。字。神。漢。唱。詠。用。松。葉。波。海。松。大。松。葉。場

有。り。山。水。二。ヶ。取。大。巖。石。一。向。凡。除。言。と。及。松。枝
い。し。し。山。水。不。相。成。為。松。仕。山。山。里。在。為。松。葉
松。も。隆。揚。い。し。一。國。在。山。水。山。水。山。水。山。水。村
毎。三。日。禮。又。も。八。九。禮。宛。有。り。山。水。大。松。葉。場
後。中。之。山。國。地。之。見。競。と。龍。相。成。大。龍。揚。と。巖
石。上。山。松。引。揚。團。並。山。反。出。松。葉。松。大。甚。去。去。去。去
之。中。不。無。理。有。り。と。

- 文政八酉年九月八丈治昌榮凡破松波入
- 文政八酉年七月八丈治山下惣十所飲所用松
- 新送山景景山名を相添

一 文化十一年十月十日 三宅治保領官村院
 一 文政九戌年三月晦日 八ツ子村津守治勢在越後郡
 生繼四ノ中余稱入若姫之宮居在上宮一ノ寺
 佃屋吉良其ノ人撰之

一 文政十亥年 村中云云所撰 也

一 文政十三寅年 四月五日 山崎村女若揚末
 入九有之山は度々 若揚末云云中記 少極下
 亦月以事

一 文政十三寅年 九月ヨリ 三宅治極本親口撰

云々 新撰之ツ刻ニ 然レ 越後 作有也

一 文政十亥年 四月五日 山崎浦 女若揚末 云云 河世
 重為所方方 付之 山崎浦 女若揚末 云云 河世
 相持子年 四月 山崎浦 女若揚末

八丈嶋

正一位為朝大明神 朔日 九月祭日 十五日 廿八日

姥 婆 大明神

一男 子 百八拾八人
一女 子 百八拾八人

大 湯

一男 八 百 拾 六 人
一女 子 百 拾 八 人

三 宅 湯

一男 百 拾 二 人
一女 百 拾 三 人

旧 龍 湯

一男 九 百 九 拾 五 人
一女 子 六 拾 六 人

新 湯

一男 百 拾 九 人
一女 百 拾 九 人

利 湯

一男 六 百 八 拾 九 人
一女 七 百 五 人

神 津 湯

一男 三 子 七 百 拾 七 人
一女 百 五 拾 六 人

八 天 湯

一男 七 子 九 百 七 拾 九 人
一女 九 子 百 五 人

三宅湯由徳、依初發分至及、身以丈八尺余、五極、有
之、如近年短尺、向多、産内振、官止、此、長尺、
識之、若、出、箱中、波、重、山、和、小、市、者、先、中、波、重、是

此亦今以丈尺不同之由是及分。おれ中の向もま
位に差候事も下座におれ出せしむるは、清乃におれ不
中候才世及汚穢候こと、作候は、清乃大信
向去及懸丈之丈、減之中、清乃小信、向去及懸丈
丈八尺、減之を糸細地合宜急入減之を、
此左の清乃差候之候、生糸お懸、お清乃生糸、且又
近年中、清乃向多、清乃小信、向一、向二、
作用并、おれ出せしむるは、清乃小信、向多、
お清乃大信、及中、清乃大信、及中、清乃大信、
小信、おれ出せしむるは、おれ出せしむるは、

減之差候こと

右清乃清乃、清乃丈尺、おれ出せしむるは、清乃清乃、
清乃小信、者一同、清乃清乃、清乃清乃、
おれ出せしむるは、

但、清乃清乃、清乃清乃、清乃清乃、

辰月

清乃、清乃、

之宅清

役人申

其の體積漢業積出方と成去已巳月中後人出府
之能治方一統評義いしし山道中三月於同年
十月中書符といひ續中渡並山由二月中
二卷中紙漢業之中心之を由二月上旬繼
武在中論も元山道有し紙江戸表送るしるを
入用江見意の中起といふ不元出山お交り一旦
作符の義有しといふも其の少しと相傷も見在
仕由といふ相山より劫糸も一渡りもいしといひ
其の並りも否相分意身以答宗相交り二年競
治方由成と評すお如く有交評有し事出方公持

遠くは紙武漢業之河舟書の大橋河漢漢に
お上り押送り紙の宗符一の山由いを風然く
付寫しよる江戸表送宗也一し由もといふ
河道とも由信しし一其の交り紙中と其の
紙漢師元といふ中後送る便形と其書書月
てお送るいし

年 十月廿二日 信所

信國清
三三三
神人
年

一八丈納藏上納所及物目方享和元酉年七月
以納戸上納所合取之也

帯藏日所取七日 合取藏百日取七日
坐箔子五取六日 黄紙八取八日

ノ

一正納所之三宅納所廣私米穀之儀有浪次あり

一八丈納所納所運賃

三宅納所月取六
米穀納所儀月取六
及物敷三取六
茶三取六

正油三取六
味噌五取六
油三取六

一八丈納所深納所是六取六 是及之也

一三宅納所深納所是八取六 是及之也

天保六年正月書之 八丈納所

新納所三百拾五石 八百七拾八石 月男八百七拾七人 女千九拾八人
是田村百拾五石 六百八拾八人 月男七百七拾七人 女三百七拾八人
是東村九拾五石 五百九拾八人 月男三百七拾七人 女三百七拾八人

泉津村三振屋形百五十二人男九十五人女九十七人
野原村八振屋形百五十二人男三十三人女二百一十九人
八振屋形百五十二人男三十三人女二百一十九人
念三三十七百七拾三人男九百七拾五人
法橋渡

八振屋形百五十二人男九百七拾五人
八振屋形百五十二人男九百七拾五人

天保七申年書上

大橋内

一家教之百七拾九人

新井渡村

男八百七拾九人

女八百七拾九人

男八百七拾九人

女八百七拾九人

川

一家教百七拾九人

長田村

男八百七拾九人

男 二百七拾五人
女 二百拾五人
信 五人

田 町

岩手代村

一家 役 百拾五

男 九拾五人

男 三百五人
女 二百九拾五人

田 町

泉津村

一家 役 二百七拾

男 七拾五人

男 九拾五人
女 八拾五人

田 町

北沼村

一家 役 九拾五

男 百五人

男 二百九拾五人
女 二百七拾五人

田 町

合 家 役 七 百 五 拾 五 寺 七 寺
人 役 三 百 七 拾 五 寺 信 五

大沼

新井沼村
泉津村

野増村
墨田村

若木地村

三宅沼

神尾村
伊豆村

伊豆村
伊豆村

阿古村

八丈沼

大塚口
末吉村

中之口
横立村

三ッ根村

日小沼

宇津森

名取村

青ヶ沼

天保十一子年書上

一家殺五拾四人

人殺五拾七人

男百六人
女百拾三人

利沼

天保十一子年書上

一家殺五拾九人

内 後家三人

神津沼

水吞括去新
温后玉新

孝
孝
孝

人教子七百托人

男七百托人
女九百七托人

介信三人
流人三人

天保十一子年書上

一家教之百世孫玉新

人教子九百七托人

男九百托人

外女子出括三人
孝信九人

長常孝玉新
口末孝田新

新
將

一家收之拾八彩

人收之百五拾七人

男百五拾人

女百五拾七人

外信寺人

寺寺彩

美渚村

天保十一子年書上

一家收之百七拾六彩

三宅村

人收之百五拾三人

男子百五拾人

女子百五拾三人

同年

一家收之百七拾

人收之百五拾三人

水尻村

男百八人
女百廿五人

一由鹿嶋天保十二年調出

男百廿七人
女百廿九人

信少人

海門
海門
道
十九

天保十亥年書上

八丈島

大賀郷

一家教出百廿六人

人教出子之孫九人

男九百六人

女子百三十三人

外

渡田一歌男九人
女五人

英重流人男四十一人
女七人

一家教出百拾三人

人教出子之孫六人

男六百四十一人

女八百五十一人

三根村

外
浮田一歌 男 五人
女 五人

在會流人 男 五
女 五人

一家 教 百 拾 五

人 教 七 百 七 拾 六 人

末 吉 村

男 三 百 五 拾 九 人
女 四 百 五 拾 八 人

外
在會流人 男 五
女 五人

一家 教 百 七 拾 三

人 教 子 百 八 拾 八 人

中 の 郷

男 四 百 九 拾 九 人
女 六 百 九 拾 九 人

外
在會流人 男 五
女 五人

一家 教 百 五 拾 四

人 教 子 百 五 拾 五 人

櫻 之 村

男 12 百 7 拾 人
女 6 百 5 拾 人
外
在會流人 男 3 拾 人
女 4 拾 人

一家教 出 拾 形

人 教 出 百 拾 六 人

男 百 拾 八 人
女 百 拾 八 人
外
在會流人 男 八 人

宇津本

一家教 出 拾 形

人 教 出 百 九 拾 七 人

男 百 拾 拾 八 人
女 百 拾 拾 八 人
外
在會流人 男 五 人

鳥打村

一家教 出 拾 形

人 教 出 百 八 拾 八 人

男 百 五 拾 五 人

青ヶ島

女百三拾七人
外
在會流男八人

男
女
七
人

男
女
四
人

男
女
三
人

男
女
三
人

地
言
橋
長
尺
馬

淡
沼
寺
三
馬

沖
山
健
次
馬

佛
用
永
三
艘
宗
組

百三
姓
言
橋
洪
三
馬

右
言
橋
代
古
馬

赤
言
山
橋
尺
馬

淨
土
宗
巨
州
下
田
園
若
寺
末
宗
福
寺
長
樂
寺

男
女
四
人

男
女
六
人

男
女
三
人

男
女
三
人

合家教子五拾五形
人教七子五拾八拾六人

男三子三拾六人
女四子五拾六人

外
深田一教男拾人
女拾人

在余流人男百九拾三人
女拾五人

一八丈船中、口至倉敷、船又百石積斗積斗及帆仁壽丸
沖船以後、倉敷水邊便、私人教合拾三人、又政十子年
九月廿四日、江戸川出帆、翌年正月十一日、和國浦免
宣年春去、西日番七番、度船分送、東日番水邊
内、五人沖中、方病死、い、一、海拾人、送り、東日、舟
咄、味、申、揚、危、此、迄、也、二、月、良、句、於、甚、深、河、所
二、川、渡、山、角、門、丸、者、是、也、山、谷、河、子、以、河、合、中
渡、也

右之者、先、長、深、喜、の、後、丸、流、後、人、二、月、二、日、迄、也、名、

水信舟 右道中政用金三拾兩金一兩
以貨渡取成南宮年賣及北揚代金一兩
返納之積 田口右席在馬孫山附其後晉公積
口渡透八島柳 以代大川重年積 以後

八丈清地人

山下平二年
年九

仁壽九年九月

仁壽九年九月

沖船渡後云
水至案廻便
招火人整格之人

文政十一年九月江戸川出帆夏州下田中
船地事渡回所十月出帆在風方八丈清邊
案系了山和佛六時化秋成回格家入華家
文手漂流渡在兵和何方岸便了山和後

一日發船神代新り神合。五月十日。完子
何方トモ不都合漂流波大時化。内船出。櫓共介
去大波。テお落。シ。少積。荷物。を。船。換。出。候。船。大
船。換。お。成。入。既。船。内。出。る。色。お。成。今。一。波。有
有。之。色。お。成。キ。事。何。事。物。余。波。度。一。回。に
神。佛。祈。ひ。色。何。事。も。有。身。氣。重。り。少。候。一。切
今。一。船。中。ト。モ。方。左。右。ヨ。キ。ニ。テ。切。カ。ケ。亦。波。帆。繩。ヲ
以。漸。々。左。右。ツ。ナ。キ。是。ニ。テ。船。少。ク。夕。モ。ナ。出。候。夫
今。一。下。波。有。り。候。一。回。溺。死。下。存。在。身。氣。少。波
岸。和。キ。岸。下。先。船。中。へ。水。ヲ。カ。早。ホ。シ。度。一。回。藏
以。漸。々。中。船。以。近。水。死。亡。候。中。候。其。余。事。自。力
不。及。一。回。船。建。候。以。候。夫。船。以。一。回。カ。早。ホ。今。下
際。世。水。ヲ。カ。早。ホ。シ。中。候。以。候。又。一。回。水。掛
二。日。目。候。船。以。漸。々。浦。際。近。カ。早。ホ。シ。下。船。候。亦。有。死
候。事。報。へ。り。水。入。お。成。候。夫。上。下。お。け。り。候。一
旨。于。上。候。世。乃。六。日。斗。事。一。回。食。の。候。以

者おきしとて、正ニサレトト、に、裁受斗、と、其、
を、船、大、破、し、此、時、カ、ツ、パ、下、と、申、す、其、時、有、り、山、内、
是、より、船、中、用、之、と、し、大、折、箱、丸、出、し、積、火、亦、消、し、
此、時、其、難、具、其、其、不、寛、と、申、す、大、事、と、し、此、時、是、は、
先、如、事、ニ、米、ニ、テ、カ、工、ヲ、振、一、回、食、事、此、水、モ、少、ク、
此、時、山、内、其、進、之、に、お、り、山、内、未、之、後、之、難、斗、成、文、と、
此、時、及、位、し、日、ノ、利、水、サ、ル、ホ、ニ、武、重、苑、と、お、定、先、
以、カ、工、ヲ、積、公、良、事、消、在、吾、知、也、和、十、月、之、水、切、お、成、

一、回、難、斗、此、難、斗、方、有、り、湖、ヲ、吞、食、し、此、難、斗、
一、回、之、を、一、水、氣、ヲ、難、斗、此、難、斗、山、内、此、難、斗、
谷、湖、ヲ、汲、入、谷、ノ、上、に、去、り、水、ヲ、ウ、ツ、ム、キ、湖、
火、ヲ、焚、是、ニ、テ、也、け、ヲ、取、水、之、波、利、山、新、亦、一、切、
之、ノ、新、斗、之、内、申、す、亦、コ、ハ、ニ、焚、命、山、十、月、十、三、日、
大、而、降、世、其、山、水、氣、在、家、組、中、一、回、十、分、水、ヲ、
吞、食、武、と、云、合、七、合、其、外、又、と、云、外、余、も、吞、食、位、
候、之、不、消、り、入、相、ホ、水、氣、在、山、内、又、十二、月、至、

水切船儀仕合船十二月十二日示大雨降甚後
あ三日示亦大雨降是テ水十分貯以食事
飲食前後大水入米ヲ之乳ニテ上ケ是チイリスリ
御テスリ粉ニイタシ食波在舟中為候ノ事
也打控申國持亦舟カノ事有之候後ニ事有
打仕合申申座合帆柱舟カノ帆柄ヲ帆柱ノ形ニ
仕帆柱之反ノ船カ反ノ波カ舟上一回湖ヲアビ
リチトリ神佛ヲ祈居合帆柱儀兼備也年以舟
有之連舟世度也物命船カ成内公に存事
候方書並未舟之遊遊徳ノ事也遊遊大一回氣
落不取取格格、カチ舟カ舟カ舟カ舟カ
仕合申事、候公候、家取山合候大控候
候之自祖師難有也伊法事也度遊上事
丑正月十日候之度、年、次大控候位上人
ハレタマヘ候事、麻子ヲ持我ガ法分派ニ事
トノ御友出候ニタマヘ事比不岩山武八岩岩採

種々之市山歩の終極、右見矢ひに、
治身係来り此布にて、夏井の山、日禱、
活に、此是全く祖師上人の出現、存教有り、
公コニテツシヤ山十日、日向、山ヲ見、
世邊、人取らむ、存傳言、祖師是、
系山、白漢、テ、廣地、是、一、回、上、
山、色、テ、人、取、一、向、空、落、向、之、方、小、
末、之、方、柳、樹、お、え、山、指、足、落、
下、系、病、者、
此、山、之、空、若、印、玉、
空、舞、之、系、
此、山、之、空、
波、居、
此、山、之、空、
三人、歩、
有、之、

口三年カタナナリ水牛の業の二人を如人ナリ
二人を男ナリ中、漂流の者物其の根をえん
血港ヲ所持波舟の定る我々も世のたご夕夕ニ
尚余波ゆるの跡に在るは先も世ののムカイ
括三人一団下座仕手合せ仕方波ゆる物其の
根中血港一先方をも不処分括子括二人との
居るは血港ヲ実立室何れ中すは先け方上向
不処分先方との只目もし居るは世の根
彼多由多し親括ヲ出に既分く取の業内波ゆる
仕方波ゆる方り中不処分は苗テ見せし前分
妙括子カウメント中し骨お分りし地は公認お安公結
世帯カヤント中血向見えは小港の集りて今
吾は後、形中血カヤン御の暖玉正月十日
日中、六月迄括、先は史公彼との何方
連系、其の括子身は既波ゆる人自派系
括人々其の括子の六分系りし如途中一

海にゆきし木の下と砂の中とをせりし十人五匹
海に是も亦の下とをせりし北東並に有る處に
獣のひと九喰スルキ中一トスルナリ箸ナシ入
虫喰ク獸のひと九喰スルキ中一トスルナリ箸ナシ入
喰しゆとの虫大ニ父へ廿セ亦自らも其語と父へ
十三日一人が赤糸海に板と赤糸は是は方有く
葉が沙う持出〜ぬるが海に上り上書有く
葉が日中ぬる送ると云事方有く中ぬるが上り
世に凡十里余有〜ぬるは紙に筆と出〜ぬ

舟を多の根板ナリ右二束出〜ぬる日中国書
海に北東と持く十人赤糸廿人〜ぬるは是と
又日中ぬる心持語り大きに笑ひまが十人
との余り運き反向いぬるを尋りちりり柳子ナリ
ト号くは西ハカニヤントナリ牛ヲババト云事有る
ぬ指示ハニ能位何處に是ヲ喰ク月代利刺キ
事有る〜ぬ指三人者一日あなりのカユヲ父へ
廿セは日月日中ぬるが〜ぬるをキ指〜ぬるは

海田 (松ニニ
ホニニニ) マニイランヤナ

二月廿五日。船以マカヒタン 親父ヲホロケ
三イラン船長 逸小泊有シ 大溪^{コニワライカク}
之地に居る。逗留人馬も有赤も有けり。世道
是且素して賣割多し。由示ホツケント中不草敷
紫檀黒檀亦持系。カフウヨリセキト云。喰事セ
多青吸物也。一物ホニ度。但取テ附喰

此ニイラン。廿七日。出帆十日。船長ノ
中其内大風カク。帆と下ル事。ピイラク。ト云。取
ツ。ウホウ羅沙下。ト云。事。マカチト。中。取。悉。容。テ

コロス事。トモチロスト云。日印。之文字ヲ。セ。カウサ
カケサドウ。カケシヤウサ。カウサントハ。取。事。取。之。に
カウサ。下。書。以。織。建。有。シ。タ。テ。ト。云。事。マ。ヒ。ヤ。シ。ク。ト。云。時
後。日。印。ヲ。カ。シ。暖。氣。船。渡。女。人。之。六。月。十八。日。返。港。取
マカチヨリ 船ヲ出帆 廣東

恙世道。上。國。に。控。女。有。控。山。船。多。く。有。シ。之。ろ。ん
事。成。他。船。之。所。彫。工。之。大。漢。之。大。船。三。子。余。成。り
有。之。水。平。者。控。山。船。も。入。也。西。風。マ。マ。テ。イ。カ。ト。云
取人ニ下
上筆の上ニ控ノの毛ニ結糸有
下口 控ノの毛中

坊主衣々十法上意々日印し度し意歌々

唐人も陸、ツ、ウ、ホ、ウ 廣東より廿五遊云十日

道法川船 大清 浅日中ら目

三イラニ浅洞の丸穴十

カフウヨリ十二月廿七日出帆正月 長湯の意

一 文政九戌年五月中三宅清利翁船新の遊年

一 文政九戌年父治世中辛之帝出帆此船新遊云月長湯

吉見孫 河野孫 泉而 岩野

一 門十亥年十月十六七日八文治の意い一 漢の破水年意

一 天保元宮年二月八日八文治河川船遊中辛之帝就

送云と後田口孫方に後後世及之百石石積小艘送

云おお玉大坂意の送云と横口年九月十日江川

入津十月十八日如朱葉山見分

杉江孫 田口孫 信儀孫 大川孫

田口孫 江野孫 三在孫

但平二年出帆下天保二年年活方多被船

一 天保元宮年望月山下恩平帝出帆一 十月十日

如朱葉山見分 杉江孫 長谷孫 井上孫

田口孫 江中孫 岩野孫 大川孫

但天保三年... 天保二年... 三院山下...

一天保八年九月十四日...

一日... 未年... 山下...

崇山見分

村井極

和田極

兩院

那倉極

三福繁極

三福繁極

一日... 年十月八日...

一日... 年... 九月...

申年正月...

一天保十年... 四月十二日...

山見分

村井極

長谷極

長谷極

長谷極

那倉極

和田極

三福繁極

一天保十二年... 二月十二日...

山見分

村井極

同田極

新見極

新見極

松北極

同田極

新見極

新見極

松北極

同田極

新見極

新見極

小極

一 天保四 辰年 六月 子

浦賢形切子百石積方淺六指文極其長其以用船
三百石積石積出百石以文在之浦賢淺定積撥入用
之他同屋之積後少近亦令三旁並代与一之同船
舟取後少也

一 天保五 甲午年 十一月 三 完清象征船出航後
始見形方不知

一 天保四 癸巳年 九月 新清大吾船八丈清廣船
取取口清出廣方式根清方破船

一 日 年 十月 新清利三船右口以
為船八丈清廣上之破船

一 天保五 甲午年 五月 申 神清清久三舟船
新清清方出帆新清之間方破船

一 天保七 丙申年 七月 廿九日 完清源吾船八丈清
廣方江戶川出帆清廣八月朔日大時北有公元
之船方大清上表方八丈清方破船

一 月 年 八月 之完清廣七船以清廣上以申
取船申方安人余船院大船年之取船

一 月 年 十月 二日 完清廣新清百指不積
指台船表七指申方申 明間之船七寸足
表下月十月七日浦賢出帆九日以方西大風方
房舟白濱方破船

一 天保七丙申年十月十二日新治佐佐木松伴夏
之佐佐木方被松

一 天保八丁酉年四月三日新治佐佐木松利送

一 天保九戊戌年三月三日新治平十郎松伴松右衛門
改谷五郎松伴松利送亥年四月廿九日始方入津

一 天保十一庚子年六月廿日新治福根九利送即
浦安方抄之代金出而松伴方諸雜用金之松
松方五平之方

一 一 年七月三日新治新治松利送即

一 一 年十月大治月新治松常廿平浮溪之松
計時和之松口布方松合二十六被松松

一 天保十二辛丑年六月十日新治三宅源吉松伴
此日八指信余移入中川尻子二井子仲之松十一日
十二日大南風方石松伴七井信子二井子之松
方會洲遊下之方又三牧州市方
但松伴已信余移移入

一 天保十三壬寅年二月廿七日新治大治長古松
伊良 仲方水松松伴松利送
新方方九揚

一 一 年七月朔日三宅源吉松利送入津

一 一 年七月十日新治松利送入津

一 天保十四癸卯年三月朔日大治又五郎松合松

夏州細代方破船

一 天保十四癸卯年四月三宅浦新島船新造入津

一 天保十五甲辰年四月大浦又中船津船改名
之屋新島新造入津

一 弘化三丙午年十月廿四日夜三宅浦急松船西風
吹瓦崩江猫亦福辺方水船如北極推突九余程
船打波口布云大木船中艘度少船内急
迫船中船を振方八余程船推突多王福中事

一 弘化四丁未年七月三宅浦九郎右馬所新造入津
一 天保元戊申年七月十日山崎浦此船後根丸
船打方破船

一 天保六乙未年四月十六日三宅浦九郎右馬所仕切法
海船波口船方全治外流人積口布方破船人
怪死云々

一 門 年五月廿九日急松船之船先久右馬所六月廿日
急松船代り船名門 七丙申年四月廿日入津
傳右馬所船名おぬい事

一 門 年九月廿六日夜八宅浦船之船名波津渡
破船

一 門 年五月十八日方江川入津船一八宅浦
川用船山下候十舟浦船方出先波云々
此船は山崎浦方三宅浦船名急松船
船名急松船の船名急松船名急松船
船名急松船の船名急松船名急松船

一 天保七丙申年二月廿四日流出帆門月廿九日入津
三宅浦尾七船文左馬系組天神丸三宅以馬船
代りし由左門流平十年古船し由

一 門年以船流出也船 前：有

一 弘化三丙午年六月三宅浦尾十船紅綱船五船被船

一 門年九月十日大浦寺尾馬船被船津船是船
三宅水五船死骸一室左船方被船津船
虎一九五中額津流流是月被船し由

一 門年十一月廿二日大浦寺尾馬船流出津船被船

一 弘化丁未年二月大浦寺尾馬船浦尾津入口方水船
流出門流長古馬船被船是月新令即先種運船

一 門年六月十七日三宅大浦寺尾馬船被船
門流長古彼船七船平船水船被船人全船年

凡思以書付也船在申上

一 經豆國附大浦寺尾馬船被船之六人宗去弘化三年九月
中於流津流新船入口九月十日南風三日津流出帆也
口流雨月小風大時化船被船一切以船相知也
後之初船之武左馬南村役人九船系以舟之長由
此後所出船等古船方一何方漂流津船被船又七
被船上流しし船流出し者先船等古船被船
何主无生死分の如知也船之約原中舟少船被船
船被船隣流津並道國之浦し如知也古船被船

小池 東西在何
周廻三里

八支路
三里

一 家教五拾九新

一 神社五拾五

山持 定津市村
五拾村

青ヶ池

三宅池

平酒中里余
周廻三里余

江戶海元六拾里余
巨井下田八拾五里余

一 家教十百五拾五新

一 神社堂小社五拾九下

一 寺七下

一 也如七艘五拾五

楳形五艘

山形池

長南中里余
周廻五里余

江戸海元六拾里余
巨井下田八拾五里余

三子村
細南八拾口

一 家教五拾八新

一 神社小社五拾九下

一 寺五下

一 也如五艘

楳形二艘

神清寺

在島三里東
南山三里東
周廻六里東

江戶海上九里東
巨州下田九里東

一 教殺百九拾七町

一 神社小社在拾七町

一 寺 三ヶ寺

一 廻船小艘 三ヶ東

穽船拾九艘

利 清

在島西三里
周廻三里

江戶海上九里東
巨州下田九里東

一 教殺八拾五町

三ヶ村

一 神社小社九拾五町

一 寺 三ヶ寺

一 廻船小艘

穽船六艘

新 沼
東西 七
江岸海上元
夏州下田元

一 家教之百八拉新
斗之村

一 神社堂小社元 斗拉新

一 年 五之七

一 也 新 七 艘 斗 拉 新

大 崎
斗 拉 新
斗 拉 新

一 家教五百拉新
六ヶ村

一 神社堂小社元 斗拉新
但彼浮屋入江有

一 寺 七之七

一 廻 新 斗 拉 新
斗 拉 新

一 櫛 新 小 揚 新 九 艘
海 上 斗 拉 新

小 櫛 新 斗 拉 新

2/2
6X

Handwritten notes in a cursive script, possibly a shorthand or a specific dialect. The text is arranged in several lines, with some characters appearing to be numbers or symbols. The script is dense and difficult to decipher without a key.

大正...
...

終